

令和2年度シラバス（国語）

教科（科目）	国語（国語総合）	単位数	4 単位	学年（コース）	1 学年
使用教科書	教育出版『新編 国語総合』				
副教材	『プレミアムカラー国語便覧』（数研出版） 『書いて覚える漢字練習ノート』（京都書房）				

1 学習目標

国語を適切に表現・理解する能力を育成し、伝え合う力を高め合い思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き言語文化に対する関心を深め国語を尊重してその向上をはかる態度を育てる。

2 指導の重点

- ・指導の重点
 - ① 基本的な漢字の修得、語彙を広げることを重視する。
 - ② 小説では人物、情景、心情などを的確にとらえられること、論説文では論理の展開や要旨を的確にとらえることに重点を置く。
 - ③ 古文や漢文に用いられている語句の意味、用法を理解し、作品の内容を的確に把握すること。
 - ④ 作品に表れた思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。
 - ⑤ 古典を通じて日本文化の特質や、中国文化との関係について考えること。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	随筆	坂口恭平 「頭の中の無限大」	・ 視点を変えることで、大きな発見をした筆者の考え方を理解する。 ・ 自分が同様の経験をしたことがあれば、紹介し合う。	18	課題テスト プリント提出物等
5	古文入門 説話	「古典の一節を音読しよう」 「兄のそら寝」	古典の世界に興味を持たせ、古のノート作りなど基本的な学習法を身に付けさせる。 ・ 登場人物の行動や心理に着目しながら内容を理解し、古文の世界に親しむ。 ・ 基礎力診断テスト		
6	1 学期中間考査（5月15日～5月19日）			1	
7	小説	芥川龍之介 「羅生門」	・ 生徒各自の感想を大切にしながら、小説のおもしろさを味わう。 ・ 一人一人の意見や感想を交流しあい、それらをもとに作品の読みを深め、自他の共通点や相違点を明確にする。	28	定期テスト プリント提出物等
	随筆	徒然草 「高名の木のぼりといひし男」 「花は盛りに」	・ 中世の随筆に触れることで、当時の考え方や価値観を学ばせる。 ・ 本文を正確に読み取らせ、筆者独自の観察眼の鋭さや深さを学ばせる。		
		動詞の活用	・ 動詞の種類、活用形を学ぶ。		
	1 学期期末考査（6月30日～7月3日）			1	
9		形容詞の活用 夏休みの課題	・ 形容詞、形容動詞の活用形を学ぶ。 ・ 課題帳演習・漢字練習プリント		課題テスト 課題の提出 定期テスト等
	評論 1	松沢哲郎 「想像するちから」	・ 書かれている問いと答えと根拠を整理し、筆者が人間を動物の違いはどのようなことだと主張しているかを理解する。		
	漢文入門	訓読の基礎 名言	・ 漢文の訓読に必要な訓点を理解し、訓読の基礎を習熟させる。 ・ 日常生活に関係の深い名言を鑑賞し、漢文訓読の基礎を身に付けさせる。		

10		「助長」 「虎の威を借る狐」	・書き下し文の練習を通し漢文の訓読に慣れ親しませ故事についての由来や大意を理解させる。 ・基礎力診断テスト	31	
11	2 学期中間考査 (10月5日～10月7日)			1	
12	小説 2	三浦哲郎 「とんかつ」	・小説の基本的な構造を学び、作品の中で時・場・登場人物の心の動きをおさえて読む。 ・サスペンス的な筋立てに着目し、小説の面白さに気づく。		定期テスト提出物
12	和歌と俳諧	奥の細道 「旅立ち」 「平泉」	・旅立ちに当たっての心情や訪れた地に関する描写・句から、作者や同行者の心情を読み取る。	27	
	2 学期期末考査 (12月1日～12月4日)			1	
1		冬休みの課題	・漢字練習プリント等		課題テスト 課題の提出 プリント提出物 定期テスト等
2	評論 2	山崎正和 「水の東西」	・「鹿おどし」と「噴水」の違いに注目し日本と西洋の水に対する感じ方の違いを理解する。		
3	物語	竹取物語 「かぐや姫の昇天」	・古典の物語を、人物・情景・心情などの表現に即して読み味わう。 ・敬語法について理解するとともに古典の語句についての知識を広げる。		
	唐詩	「春暁」 「送元二使安西」他	・詩の構成を理解する。 ・表現上の特色を理解し、情景や心情を読み味わい、詩の主題を理解する。	27	
	学年末考査 (2月17日～2月22日)			1	
		春休みの課題	漢字練習プリント 課題帳演習	4	

計140時間 (50分授業)

4 課題・提出物等

- ・授業中にプリント学習をした際にプリントを提出させ平常点として評価する。
- ・夏休み、冬休みに課題を渡し、休み明けの課題テスト後に提出させる。
- ・授業内容により定期考査ごとのノート提出や作文提出がある。

5 評価規準と評価方法

※評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図っている。	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

以上の観点を踏まえ

- ①授業の取組 (授業態度・発表や討論の様子・学習活動への参加状況等)
 - ②提出物などの内容
 - ③各学期の課題テスト
 - ④定期テスト
- ①から④を総合的に判断し、評価します。

6 担当者からの一言

- ・予習を確実にやる。(本文の書写、音読等)
 - ・板書、説明はきちんとノートすること。
 - ・提出物は必ず提出すること。(期限内に、やり残しなくやって提出する。)
 - ・わからないところはそのまましておかず、質問等すること。
- テストだけではなく、ふだんの授業を一生懸命やるのが大切です。

